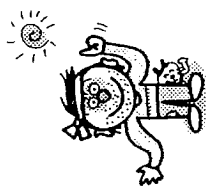
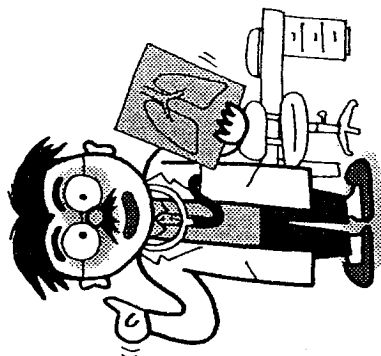


けっかく 結核のしおり

第1号
2004年5月作成



ホームレスの人の間に結核患者が増えていることを受けて、行政により新しく実施されるようになったのが、先に書いたように「路上結核健診」や自宅で薬を飲む方法です。結核は治療すればなおる病気なので、心配せずに、さまざまな支援策を利用しましょう。一人で福祉事務所などにいくのが心配な方は「新宿ホームレス支援機構」に連絡をください。



ホームレスの人々の結核を考える会

【連絡先】新宿ホームレス支援機構
新宿区大京町3 新大京マンション304
電話 03(3226)6845
ファックス 03(5367)5667

ホームレスの人々の結核を考える会

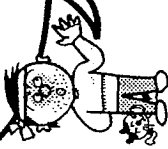
【連絡先】新宿ホームレス支援機構
新宿区大京町3 新大京マンション304
電話 03(3226)6845
ファックス 03(5367)5667

日本で野宿を余儀なくされる人たちが増えはじめて10年以上がたちました。ここ東京では、山谷のような日雇い労働者の街や、新宿のようなターミナル駅で目立ちはじめたのが91年ごろです。現在では23区と三多摩の市部を合わせると1万人にはなると考えられます。

みなさんは、野宿をはじめでどれくらいになるのでしょうか？ ブルーシートで小屋掛けなどをしておられますか？ それとも、夜だけダンボールなどで囲いをつくって寝ておられるのでしょうか？ 食事の取り具合はどうでしょうか？

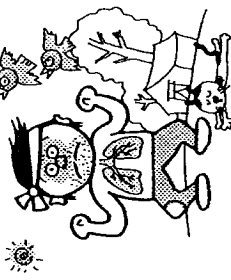
都と23区台向で実施されている自立支援策も進んでいます。緊急一時保護センター（大田寮・板橋寮・江戸川寮）や自立支援センター（台東寮・新宿寮・豊島寮・墨田寮・渋谷寮）のことをご存知でしょうか。公園のブルーテント居住者を対象にしたアパート借り上げ事業も近々はじまります。一昨年制定された、「ホームレス自立支援法」には、ホームレスの人びとのための保健・医療の充実も大きな柱になっています。みなさんに結核について知っていただきたいと、結核予防会のお医者さんたちに教えていただき、このチラシをお配りします。

みなさん!



結核のことを知っていますか？

よく知られているように、結核という病気は、日本ではもうなくなつたと考えられていた時期もあるのですが、90年代に入って再び患者が増え始め、関係者の間で心配されてきました。2000年以降はおちついてきているものの、生活環境と栄養状態の悪いホームレスの人びとの間では、一般社会の何倍ものいきおいで蔓延しています。例えば、新宿では、冬の間、誰でも2週間入れる「厳冬期対策」（「げんとうきさく」と呼ばれている）というシェルター入所者150人のうちに9人の結核患者が見つかりました。また、「体のぐあいが悪い」と新宿福祉事務所を訪れるホームレスの人のうちにも、多数の患者さんが見つかっています。シェルターに入所してからは、野宿状態でも結核については、後に述べるように、治療や生活保護による生活の保障など、行政による対策が採られるようになってきているので、少しでも心配な方はぜひ行動を起こしてください。



2 結核ってどんな病気？

- 咳やタンが長くつづきます。ふつうの風邪だと1〜2週間くらいで良くなるのがもっとつづくのです。2週間以上の長引く咳は赤信号です。
- 咳・タンといっしょに微熱が出たり、だるくなることが多いです。



結核を治療し、 治ったことがきっかけとなり 人とのつながりができた。

(Hさん)

2000年夏、新宿の中央公園で寝ていました。自分は糖尿病で腎臓も悪く、むくみが出て動けなくなり、飯場のおやじに「動けないんじゃない出て行け。」と言われてしかたないから飯場を出て、金のあるうちはサウナに泊まっていたんだけど、金も底をついて、野宿になったのです。

ダンボール拾ってきて公園でゴロ寝し、雨のときは新宿駅で寝ていました。駅は夜11時からでないと寝られません。毎朝おにぎりをもらってました。新宿連絡会の炊き出しのときに、「具合の悪い人は生活保護の申請をしましょう。福祉事務所につきそって行きます」とアナウンスしてました。それを聞いて、自分は一人で行ってみたい。「糖尿病でどうしようもない」と話したら、生活保護を受けてドヤに入ることになりました。

最初にかかった病院は内科しかなくて、「栄養不足かなんかしらなけれど、セキが出てとまらない」と言ったら、総合病院を紹介してくれました。その呼吸器科でレントゲンをとり、タンの検査も受けました。1カ月くらいして結果が出、「ガフキー8」という結核の重い段階であることがわかりました。そんなに重いなんて、自分で

も驚きました。

国立療養所に7ヵ月入院しました。ふつう4ヵ月くらいなんだけど、自分の場合は糖尿もあったから。退院して宿泊所に泊り、その後ドヤに落ち着きました。退院してからは、DOTS（ドッツ）で保健所に通いました。病院にいた時から先生に、治るということを言われており、また仲間の経験などを聞いていたので、きちんと薬は飲んでいました。ドッツで、毎日保健所に歩いてかよ通ったのがよかったです。いい運動になった。生活にメリハリができました。じゃなきゃ、ドヤでゴロゴロしてるだけだから。

そして最後まで治療を完了することができました。結核を治療し、治ったことがきっかけとなり、人とのつながりができたことが一番よかったと思います。いま、「もやい」という、アパートの保証人提供をするNPOでお手伝いしています。「もやい」は保健所を通じて知りました。また、新宿連絡会の炊き出しの手伝いも1年以上行っています。結核はきちんと治療すれば治るということを広く発信してほしいと願っています。